



地域研究集会

第 11 回日本海研究集会
京都の海の魅力と不思議

日時：2022 年 10 月 29 日（土）13:00～16:30

会場：舞鶴市商工観光センター5 階（コンベンションホール/ホワイエ）*

コンピーナー：益田玲爾・甲斐嘉晃・鈴木啓太（京大フィールド研）

共催：京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所

申込：Google フォーム入力（<https://forms.gle/xSeyHExxNekhtZ5a8>）

締切：9 月 30 日（金）

定員：150 人（締切日前に定員に達した場合、その時点で締切となります）

*新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって、オンラインに変更する場合があります。

プログラム

全体司会：高橋宏司（京大フィールド研）

- | | | |
|-------------------------------|-----------------|-------------|
| 開会挨拶 | 木村伸吾（水産海洋学会長） | 13:00～13:05 |
| 趣旨説明 | 益田玲爾（京大フィールド研） | 13:05～13:10 |
| 講演 | | |
| 1. 風が吹けばー日本海側気候とプランクトンー | 鈴木啓太（京大フィールド研） | 13:10～13:35 |
| 2. 京都のエビ・カニ類ー今までの知見と新たな発見ー | 邊見由美（京大フィールド研） | 13:35～14:00 |
| 3. 京都の海を保存するー未来につなぐ魚類標本ー | 田城文人（北大総合博） | 14:00～14:25 |
| 休憩・ポスター発表（大学院生・高校生など） | | 14:25～15:00 |
| 4. 舞鶴湾の豊かな恵みーカキ漁師の6次産業化の取り組みー | 岡山拓也（岡山八朗兵衛商店） | 15:00～15:15 |
| 5. 高校生による環境調査の継続ー高大連携の意義ー | 本藤聡仁（京都府立西舞鶴高校） | 15:15～15:30 |
| 6. 水中から見た京都の海の魚たちー旬の魚と温暖化ー | 益田玲爾（京大フィールド研） | 15:30～15:55 |

総合討論

進行： 山下 洋（京大フィールド研）

パネリスト：富永 修（福井県大海洋生資）・谷本尚史（京都府海洋センター）・
佐久間 啓（水産機構資源研）

15:55～16:20

閉会挨拶

益田玲爾（京大フィールド研）

16:20～16:30

開催趣旨：

京都大学舞鶴水産実験所は、1972年に京都大学農学部水産学科の跡地に設置されて以来、地域に根差した取り組みから世界に先駆けた研究まで、京都の海をフィールドに多彩な活動を展開してきた。近年は、収蔵数40万点の魚類標本を利用した分類学的研究と、教育研究船や飼育施設を活用した生態学的研究に力を入れている。また、2011年に文部科学省教育関係共同利用拠点に認定されて以来、全国の大学生に体験学習と課題研究の機会を提供している。さらに、森から海までの生態系のつながりを究明し、人と自然のかかわり方を考究する森里海連環学も推進している。本シンポジウムでは、水産海洋学分野において地域との連携を深めることを目的に、実験所の教員が近年の活動成果を紹介すると共に、京都の海を知る様々な立場の演者がその魅力と不思議に関する話題を提供する。本実験所をモデルケースとし、大学の水産実験所や臨海実験所が地域の水産海洋学分野の教育研究拠点として果たすべき役割をとともに考えていただきたい。